

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6471276号
(P6471276)

(45) 発行日 平成31年2月13日(2019. 2. 13)

(24) 登録日 平成31年1月25日(2019. 1. 25)

(51) Int. Cl. F 1
A 4 7 G 7/02 (2006. 01) A 4 7 G 7/02 G

請求項の数 3 (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願2016-158168 (P2016-158168)	(73) 特許権者	592247366
(22) 出願日	平成28年7月25日(2016. 7. 25)		高木 闌子
(65) 公開番号	特開2018-15508 (P2018-15508A)		千葉県印西市内野2-6-39-301
(43) 公開日	平成30年2月1日(2018. 2. 1)	(72) 発明者	高木 闌子
審査請求日	平成29年4月20日(2017. 4. 20)		千葉県印西市内野二丁目6番地39棟301号
		審査官	長清 吉範

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 花留めとブーケ補助具

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ゴム材から成るリング同士を係合しながら組み立て、端部を結束バンドでまとめて結合しており、

中心を同じくした内径の異なるリング(2A、2B、2C、2D、2E)を適宜間隔をあけて配し、当該内径の異なるリングの夫々の輪の中に、他のリング(3A、3B、3C)を挿通させることにより、中心から外方に向かって放射状に均等にリングを係合させて構成されることを特徴とするブーケ作成補助具。

【請求項 2】

前記他のリング(3A、3B、3C)のうち外側に存在するリング(3B、3C)同士10
の両端部を合わせて、これを前記内径の異なるリング(2A、2B、2C、2D、2E)のうち外周となるリング(2E)に結合して形成されている、請求項1に記載のブーケ作成補助具。

【請求項 3】

請求項1又は2に記載のブーケ作成補助具と、当該ブーケ作成補助具を花器に取り付ける為の固定具とからなるフラワーアレンジメント用の花留めであって、

当該固定具は、ゴム材から成る丸紐(7)を、樹脂、金属材料から成る網目を有した平板状の任意形状のフレーム(5A)、もしくは、網目を有した立体形の任意形状のフレーム(5B)に捲着し形成されており、リング同士の係合部やフレームに捲着された丸紐(7)で花を傷めず支持し、花器も傷つけず、容易にバランスよく花をまとめることのでき 20

る多数の花挿開口を設けたフラワーアレンジメント用の花留め。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、フラワーアレンジメント製作用の花留め、及び、ブーケ製作の簡易化を図ったブーケ補助具に関する。

【背景技術】

【0002】

フラワーアレンジメント用の花留めとしては、吸水性フォームに花を挿花する方法が一般的である。(例えば、特許文献1参照。)

10

また、金属、樹脂、アクリル等から成る、穴、網目状に花を挿花してアレンジする方法もある。

【0003】

また、従来 of ブーケ製作には、片方の手で茎が交差する支点となるところを持ち、支点がずれないように茎をスパイラル状に組んで行き、束ねたものをラフィア等の紐状のもので縛る方法がある。

また、花を挿してアレンジできる吸水性フォームと補強カバーと握り部から成るブーケ用の花束ハンドルに花を挿してブーケを製作する方法もある(例えば、特許文献2参照。)

【先行技術文献】

20

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】特開2002-165520

【特許文献2】特開平9-191990

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

以上に述べた従来 of フラワーアレンジメント用の花留めとしての吸水性フォームは、使用する前に吸水させておくなどの準備を必要とし手間がかかる。また、一度挿すと穴が開いてしまい、再度挿すと茎がぐらつくなど挿し直しができず、使い捨てであり、毎回ゴミになり環境上好ましくない。また、ガラスの花器等、透明な花器には不向きである。

30

また、以上に述べた金属、樹脂、アクリル等から成る、穴、網目状に花を挿花してアレンジする方法では、花の角度を決めて固定する力が弱いものであった。

【0006】

また、以上に述べた従来 of 手でスパイラル状に組んで行くブーケ製作の手法では、片手で花の重みを支えながら、支点を1点にしてずれないように組むため、花を組んでいる途中で手が痛くなる、花の中心がずれる等、難しく、熟練した技術が必要であり素人が組むには難しいものであった。また、この手法では、茎を積み重ねて束ねて行くため、花が密集しすぎる感があり、空間を空けて組むことが難しく、多くの花材を必要とするか、間に葉物を入れて空間をとる必要があった。

40

また、花束ハンドルを使用してブーケを製作する方法では、茎を短く切って吸水性フォームに挿すため、茎をまとめるものではなくナチュラル感を損ない、使い捨てでもある。

【0007】

本発明は、このような従来 of 手法や構成が有していた問題を解決しようとするものであり、誰にでも容易にきれいに花をまとめることができる、使い捨てではないフラワーアレンジメント用の花留めと、ブーケ製作の簡易化を図ったブーケ補助具を実現することを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【0008】

そして、本発明は上記、花留めの目的を達成するために、ゴム材から成るリング同士

50

を係合しながら組み立て、結束バンド等で結合し成形された、主に、リングで構成されることを特徴とする本体と、シリコン等のゴム材から成る丸紐を、樹脂、金属材等から成る網目を有した平板状の任意形状のフレーム、もしくは、網目を有した立体形の任意形状のフレームに捲着し成形された、前記本体を花器に取り付ける為の固定具から成るものであって、リング同士の係合部やフレームに捲着された丸紐のゴム部で花を傷めず支持し、花器も傷つけず、容易にバランスよく花をまとめることのできる多数の花挿開口を設けたものである。

【0009】

また、本発明は上記目的を達成するために、ゴム材から成るリング同士を係合しながら組み立て、結束バンド等で結合し成形された、主に、リングで構成されることを特徴とする本体のみを使用するものであり、リング同士の係合部と手で花を支持し、容易にバランスよく花をまとめることのできる多数の花挿開口を設けたブーケ製作の補助となるブーケ補助具である。

【0010】

上記課題解決手段による花留めの作用は次の通りである。すなわち、リング同士の係合部、本体で花を支持し、更に、固定具のフレームに捲着されたゴム部でも花を支持することにより、花の固定度を高め、茎を傷めず容易に花型をとることができる。また、ゴムの滑り止め作用により、固定具がずれにくく安定して花器に取り付けられ、花器を傷つけることもない。固定具に本体を置いたり、入れたりして使用し、数本の花を挿花すると、本体と固定具も動かなくなる。花型によっては、固定具のみで花留めとして使用することも可能である。

【0011】

上記課題解決手段によるブーケ補助具の作用は次の通りである。すなわち、ブーケ補助具の上部花挿開口から大まかにスパイラル状に花を挿通し、手で茎の束を支えて行くものであり、リング同士の係合部である程度、花を支持することにより手の負担を軽減し、空間をとったブーケの製作が容易に可能となる。ゴム材の効果により茎を傷めることなく支持し、素人でも容易に花をまとめることができる。茎が交差してくると、花の固定度が増し、花の向きも決め易くなり、花をまとめた後に花の高さを修正することも可能である。

【発明の効果】

【0012】

上述したように本発明の花留めは、ゴム材から成るリングと丸紐を使用することにより滑り止め効果を発揮し、花の留まりを良くして花型をとり易くし、花器に簡単に取り付けることが可能である。また、使用するために準備する手間を省いて、使い捨てではない繰り返し使用可能な、環境に配慮した花留めを提供できる。

【0013】

上述したように本発明のブーケ補助具は、従来、茎を1点に集中してずれないようにスパイラル状に組んでいく熟練した技術を必要としたが、手の負担を軽減して素人でも容易にブーケを製作できる。また、従来の手法では、茎を積み重ねて束ねて行くため、多くの花材を必要とし、空間をとるためには葉物を入れるなどの工夫を必要としたが、少ない花材でも空間をとった大きい見栄えの良いブーケを容易に製作できる効果を発揮する。

【図面の簡単な説明】

【0014】

【図1】 本発明の実施形態を示す本体の正面図

【図2】 本体の係合構造を示す部分図

【図3】 図1のA-A線断面図

【図4】 板状の固定具の上から見た図

【図5】 立体形状の固定具の正面図

【図6】 板状固定具の上に本体を置いた実施例

【図7】 立体形状の固定具に本体を入れた実施例

10

20

30

40

50

【図 8】 ブーケ補助具の実施例

【発明を実施するための形態】

【0015】

以下、本発明の実施の形態を図 1 ~ 図 8 に基づいて説明する。

【0016】

図においては、1 はフラワーアレンジメント用の花留め本体、及び、単独で使用するブーケ補助具であって、中心を同じくした内径の異なるリング 2 A、2 B、2 C、2 D、2 E が適宜間隔をあけて配されている。2 A においては、上部中心で茎をしっかりと支持する為に小さ目のリングを使用し、2 B、2 C、2 D においては、内径、数を任意に変更可能とする。図 2 に示すようにリング 2 A、2 B の輪の中にリング 3 A、3 B を挿通しながら係合して行き上部を形成し、リング 2 D、2 C の輪の中にリング 3 C を挿通しながら係合し下部を形成し、3 B と 3 C の各々両端部を合わせて、該両端部を外周となるリング 2 E に結束バンド 4 でまとめて結合する。リング 3 A、3 B、3 C の内径、係合数は任意に変更可能とする。これを中心から全方に 5 ~ 10 回程度、適宜繰り返し配し、図 3 に示すように放射状に均等に配設された構成となる。

【0017】

図においては、5 A は四辺形の平板状のフレームで、5 B は四辺形の平板のフレームの中央部に網目を有する十字型のものを山型に取り付けた立体形の任意形状のフレームであって、平板部は、四辺形、円形、多角形等任意形状に変更可能とし、立体部も半球状、アーチ状等、任意形状に変更可能とする。フレームは、穴、網目状を有するものであって、材質は、樹脂、金属材等から成るものである。

【0018】

前記、フレーム 5 A、5 B に、シリコン等のゴム材から成る丸紐 7 を捲着し形成されたものが平板状の固定具 6 A と、立体形の任意形状の固定具 6 B である。ゴムの滑り止め効果を発揮し、花器に取り付ける場合もずれにくく、本体 1 もずれにくい。ゴム部で花器に接する為に傷がつかず、花型によっては、6 A、6 B だけで花留めとして使用可能である。

【0019】

図 6 に示すように、花器 8 に固定具 6 A をのせて、その上に本体 1 を置いて使用する。数本の花を挿花することにより、6 A と本体 1 は動かなくなり、安定して花を保持できる。1 の上部花挿開口から花を挿通し、1 の係合部と 6 A で花を支持する為に留りが良い。何度でも挿し直し可能であり、繰り返し使用可能である。水替えができるため、衛生的で雑菌が繁殖しにくく、生花の新鮮さも保持される。本体 1 を 6 A の上に置く構成となっているため、透明な花器に使用しても花留めが見えることなくきれいである。

【0020】

図 7 に示すように、固定具 6 B に本体 1 を入れて、花器 8 にのせて使用する。固定具 6 B は立体形状であるため花の固定度が増し、本体 1 も落ちずに取り付けられる。透明ではない花器に使用する。

【0021】

図 8 に示すように、本体 1 のみで、ブーケ補助具として使用する。本体 1 の上部多数の花挿開口から花を挿通し、手 10 で茎の束を支えて行く。中心から外方に向かって放射状に均等にリングが係合、連設されているため、花を大まかにスパイラル状に入れて行くことにより容易にブーケの製作が可能となる。バランスもとり易く、花をまとめた後に、花の高さも修正し易い。以上のように、本実施形態によれば、フラワーアレンジメントの製作やブーケ製作が誰にでも容易に可能となる。

【符号の説明】

【0022】

- 1 本体
- 2 A 上部中心となるリング
- 2 E 外周となるリング

10

20

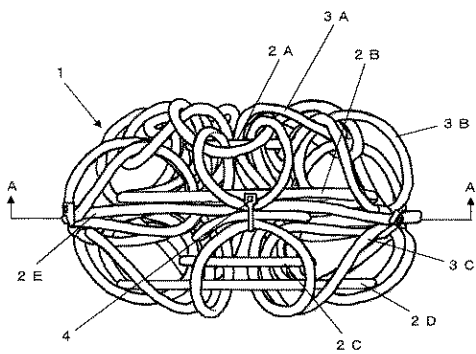
30

40

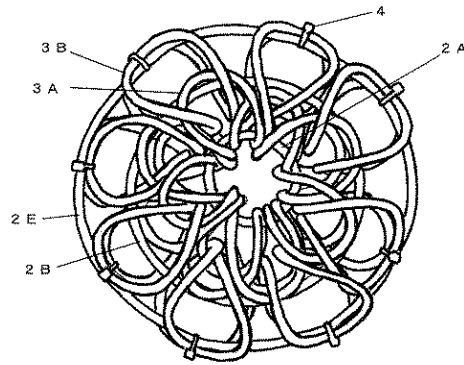
50

- 3 A オリング
- 4 結束バンド
- 5 A 板状のフレーム
- 5 B 立体形状のフレーム
- 6 A 板状の固定具
- 6 B 立体形状の固定具
- 7 ゴム材から成る丸紐
- 8 花器
- 9 花
- 10 手

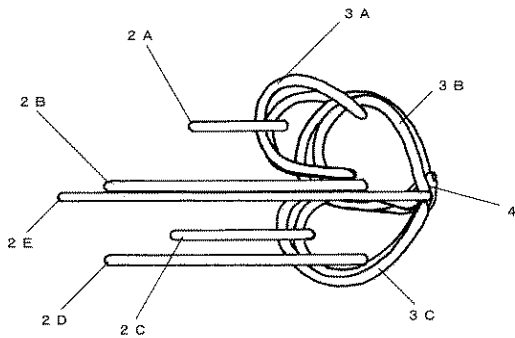
【図1】



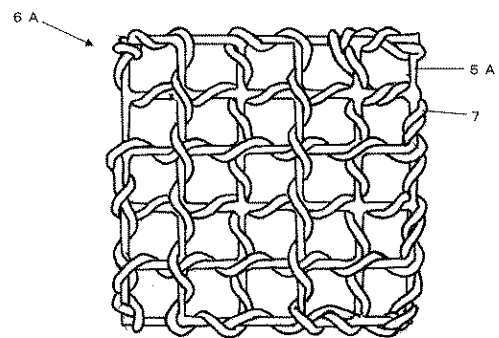
【図3】



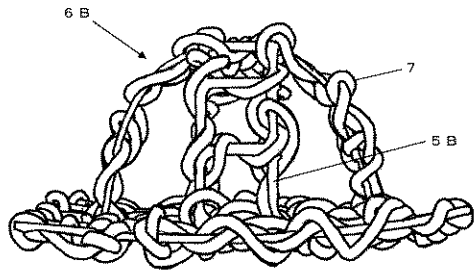
【図2】



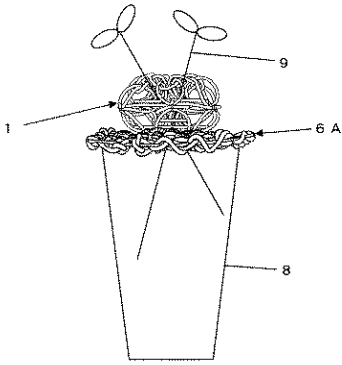
【図4】



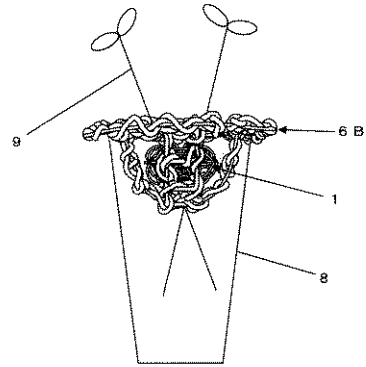
【図5】



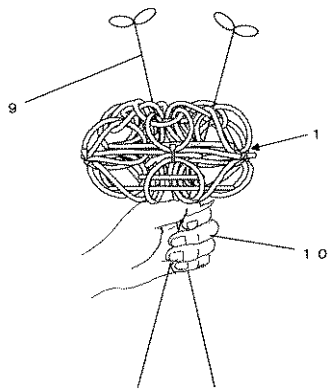
【図6】



【図7】



【図8】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開2015-181928(JP,A)
特開2005-87446(JP,A)
特開2012-66042(JP,A)
特開2003-135232(JP,A)
特開2010-268932(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A47G 7/02